流れ星通信工房

三橋乙揶

UFOの時間

雲のわく日
私は髪を
切った

恋人なんていないもの…

切った髪はビンにつめて

沼の底にしずめました

ビンの中の私の髪の毛は沼の底で永遠にもうひとりの私として生きてゆきます

キュッ

キュアアアン
キュ
キュ
キュッ
キュッ

女の子の気持なんてわからないでしょ

だって
ゴト

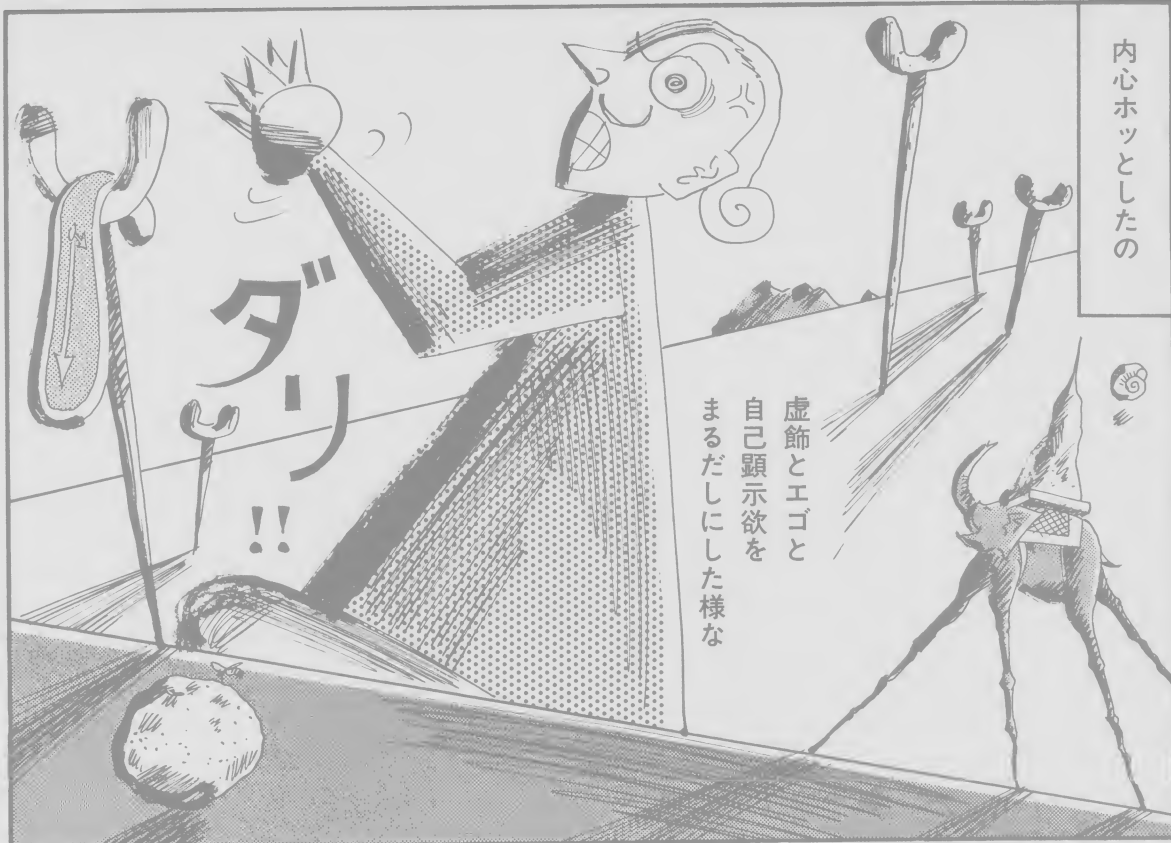
人の気持だってわからない

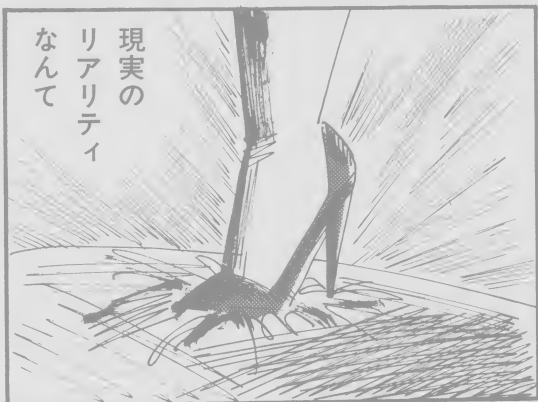
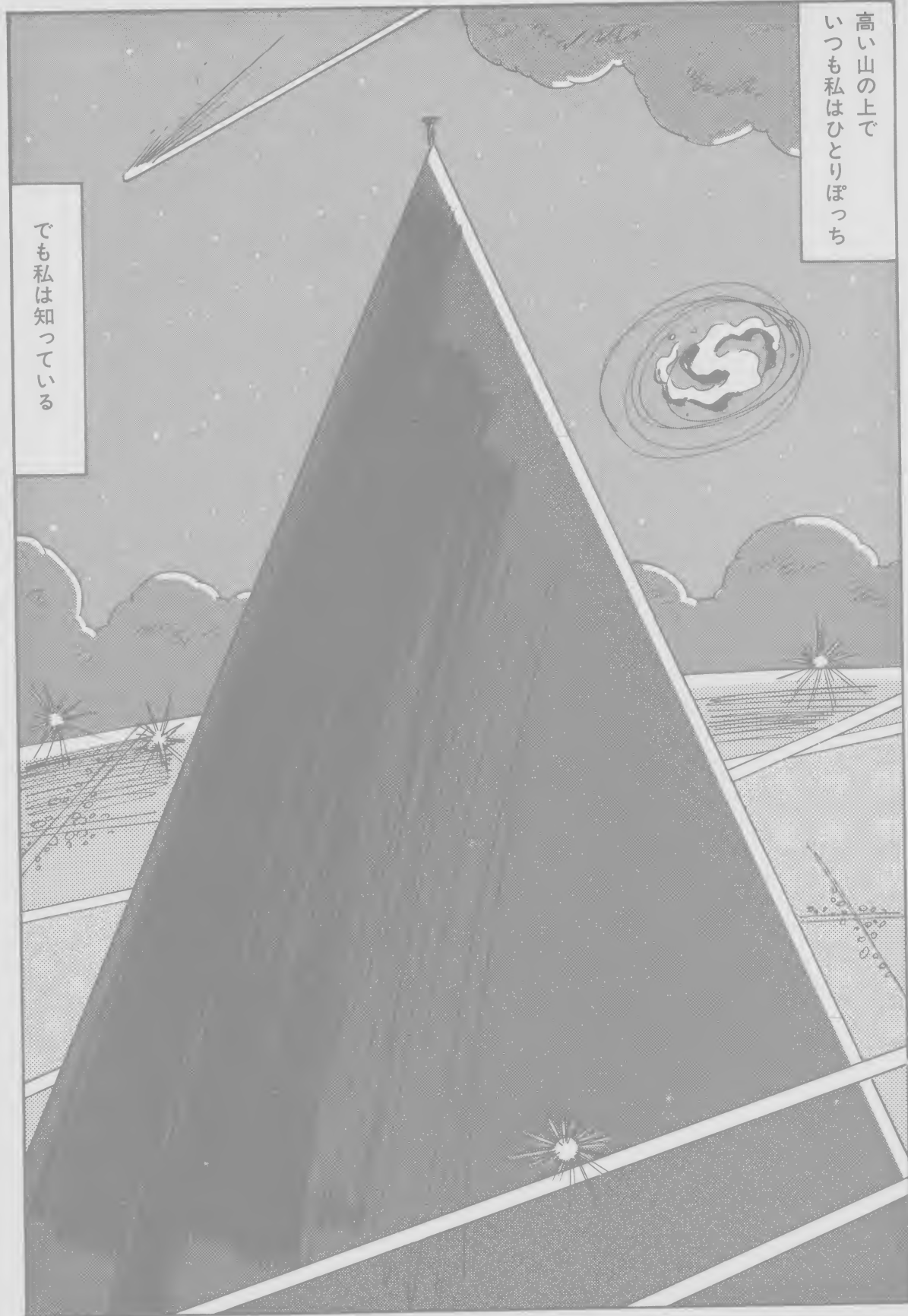
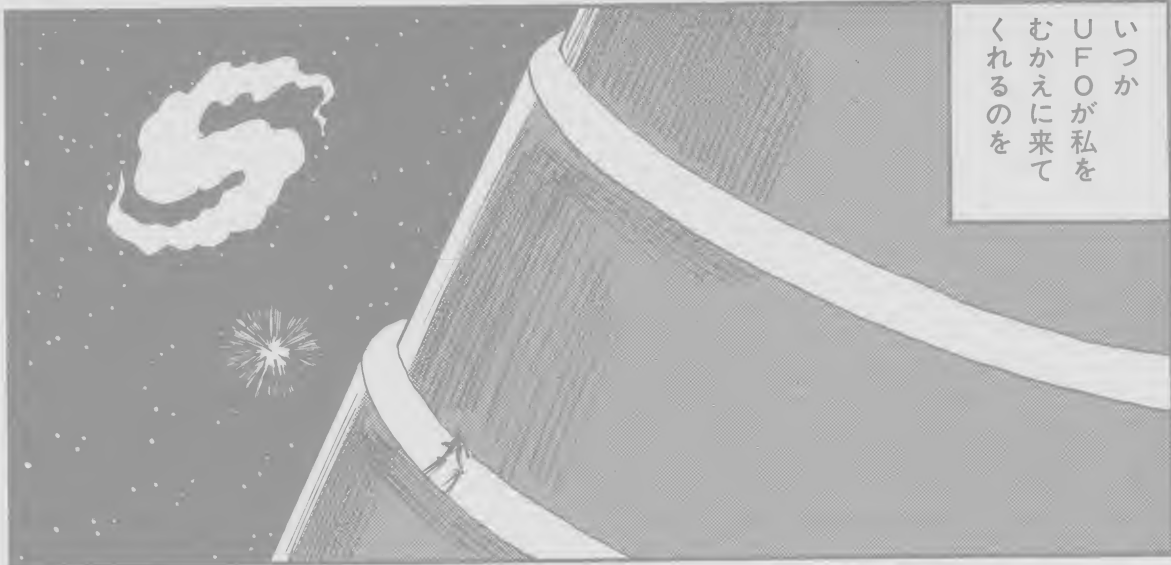
私は何を基準にして生きてゆけばよいのか…

ある日私は
縁側で

お茶を
のんでいたら
チチチ

サルバドール・ダリ
だった事に気付いて

内心ホッとしたの

虚飾とエゴと自己顕示欲をまるだしにした様な

ダリ!!

高い山の上で
いつも私はひとりぼっち
でも私は知っている

いつか
UFOが私を
むかえに来て
くれるのを

ふと気付くと私は
お風呂の中で
UFOになって
高い山にいる私を
むかえに行くところ
だった…

待って
いてネ

私
終

1992.6.11